



「や、やめて…
こんな事……っ」





「……ん」



「……うん」
「……うん」



「うん」



「あ……」





「ま、待っ！」



「あぁっ！」



「おどろき……」





「あっ! あっ! んんっ!」

110
ン
ン

110
ン
ン

110
ン
ン



「...ざー」

グッ

ハッ

「なんでこんな事……」



「これで満足でしょう…
これ以上ひどい事…」





「えっ？」



「お願いだから…止めて…」

助けて…騎士さん……

「いやあつ!!
ま、待つ…
あ…ああつ!!」







「ぶーっ……ぶーっ……」

「あっ♡」

「ごめんね…騎士くん…
私…汚されちゃった…」

110/111

110/111

110/111

「はあっ♡あっ♡
あっ♡んっ!♡」

騎士さん...

110
110
110





「ああんっ！♡イクツ……♡
イククウウウツ……♡♡♡」

110
110

110
110

110
110

110
110

110
110



「イクッ♡イツちやうううううううう♡
あああああ~~~~っ……♡♡♡♡」

グッ

グッ
グッ



「はあっ……んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

CH
6/2

「騎士くん…お願いだから…
見ないでください…」







CH
♡

「んっ!んんうううっ!はあああっ!♡」

「お願い…もうやめてください…」



「お願い…もうやめてください…」



「ちやんとしゃぶれ……」

いや……

はあ……

はあ……
騎士ウー……





うう、臭い……。

「うるせな……」

んっぐ……くるっ……

はあ……

はあ……

んっぐ……





「……全部……口に入れないって！」
んぐ、んん！

はあ……

ゴッ

ゴッ

はあ……

ゴッ



「んっく...んぐんぐん...」

はぁ.....

はぁ.....



「全部…無理……」

はぁ……

はぁ……

チィ



うっ... うぶっ!! んぐうおおほおっ!!

はあ.....

ちゅぽ

はあ.....

ちゅぽ

ちゅっ



「無理やり頭押さえないでえ！」

はあ……

ちゅぽ

はあ……

ちゅぽ

ちゅぽ



はあ

はあ……

はあ……

んんぐんぐ。じゅぶぶ……んぶ……あ、
んぐんぐっ!!

「んぐ、おむう、うむちゅっ！」

はあ……

ちゅっ

はあ……

ちゅぽ

ちゅぽ

「うお……ユイの口の中はとても気持ちい！」





ちゅば、むちゅ、ちゅる、ちゅるう……

はあ……

ちゅ

はあ……

ちゅぽ

ちゅぽ



ん、ちゅ、ちゅうう……ぶちゅう、
ちゅる……ちゅううちゅ……ん

はあ……

はあ……

ちゅぽ

ちゅん

ちゅぽ



ぺろ……ぺろ……ちゅっ……んっ……
……ちゅっ……むちゅ……れろれろ……
れろお……ん、んちゅ……

はあ……

ちゅっ

はあ……

ちゅっ

ちゅっ



んれろ.....んれろ.....あむ、んちゅ、
ちゅるる、んく.....んふう、んつ.....

はあ.....

はあ.....

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

ぐ、んん……んふ、んんっ……んん……んん、
んぐ、んんんぐっ！じゅぶじゅぽぽぽっ！

はあ……

ちゅん

はあ……

ちゅぽ

ちゅぽ





ぐぼおっ!! んぐううう!!
んぶう...ぶっ...んぶっ!! おぶっ!!

はあ.....

はあ.....

ちゅぽ

ちゅっ

ちゅぽ

「んん、んぷっ！
ましゃか、だ、出すの！ や、やらあ！」

はあ……

ちゅっ

はあ……

ちゅぽ

ちゅぽ







「おまえ、代わるわよ。」

「うええっ……えぶっ……苦い……」

はあ……

はあ……

「うわっ……最高です！」



い、嫌！ いやいやいやあああ！！

はぁぁぁぁぁ

はぁぁぁぁぁ
あぁぁぁぁぁ





「ちゅる、ちゅ……ぺろぺろ……ちゅっ……んれろ……
ぺろ……ぺろ……ちゅっ……んっ……」

はぁ……
ちゅっ♡
はぁ……
ぺろ♡



「じゅぷっ…じゅぽっ……じゅるるっ……、
お願い…騎士くん…こちらを見ないでください…」



















































